



飛鳥池工房発見の宝飾類

上、玉類、左下、金銀類。今回の調査で、この工房ではガラス玉・銅・鉄・漆器の他に、瑪瑙・琥珀・水晶製の玉類、金銀製品をも生産していたことが判明する。宝飾類は、仏や天蓋を飾る荘厳用具の部品とみられる。本文48頁参照（撮影／井上直夫）

飛鳥池工房跡と産廃を投棄した溝谷を埋め立て階段状に造成した工房作業面が営まれている。工房の東側には産廃を棄てる溝が掘られ、深い所では深さ1m以上の炭層が堆積する。

本文50頁参照（撮影／中村一郎）





**四分遺跡発見の合葬墓
(第85次)**

弥生時代中期末。東西方向に長い墓壙に、2体の成人を交互に横たえ、木蓋で覆っていた。南側の女性は右胸に石鏃を装着した矢が射込まれており、北側の男性の左肩甲骨・肋骨などには金属とみられる利器による多数の傷跡が残る。治癒反応はない。ほぼ同時に二人を襲ったこの暴力的な死が、同じ墓壙に合葬させることになった一因であろう。
本文4頁参照 (撮影/中村一郎)



吉備池廃寺の塔心礎抜取穴
西側土壇の中央で検出した心礎抜取穴。底には人頭大の根石が残る。東西約6m、南北8m以上、深さ40cmの巨大な穴で、日本最大と目される奈良県香芝市尼寺廃寺の塔心礎がすっぽり納まる。穴は基壇の高い位置にあり、地上式の心礎であったと考えられる。南西から。

本文58頁参照 (撮影/井上直夫)